



現在、ふじの生態は3月の気温が高く推移したため平年より9日ほど早まっております。
展葉1週間後頃の薬剤散布は4月15～16日中心におこなわれました。生態と基準散布の間隔が開く場合は特別散布を実施しましょう！
今後は黒星病の重点防除時期となります。散布量・散布間隔・降雨前散布を徹底しましょう。
また、生態が進むにつれ低温に弱くなります。気象情報には十分注意し対策は万全に行いましょう！

☆ふじの生態と薬剤散布の予想 4/13 現在 ※色塗りは予想となります。

地点	生態	発芽日	展葉日	開花日 予想
五代		3/31	4/9	4/29
百沢		4/2	4/13	5/2
吉川		4/3	4/12	5/2
大秋		4/10	4/20	5/10
りんご研究所		3/30・(4/7)	4/7(4/18)	5/(5/7)

● りんご研究所は()が平年となります。

☆病害虫防除

散布時期 反当散布量	対象病害虫	薬剤名及び 混合順序	倍数	1000ℓ 当たり薬量	防除上の注意
1回目 ふじの展葉 1週間後 300ℓ	モニリア病・廣らん病 黒星病・リンゴハダニ ハマキムシ類 ギンモン・キンモン	精製マシン油(97) ダズバンDF ベフラン液剤	200倍 3000倍 1000倍	5ℓ 167g×2 500ml×2	○サンホーゼカイガラムシの発生が見られる園地ではアプロード1,000倍も使用しましょう。 ○キンモン・ギンモンの発生が見られる園地ではノーモルト4,000倍も使用しましょう。
特別散布	黒星病・廣らん病	ベフラン液剤	1000倍	500ml×2	○1回目からの薬剤散布から開花直前まで間隔が開いた場合は特別散布を実施しましょう。
2回目 ふじの開花直前 320ℓ	黒星病・うどんこ病 廣らん病・モニリア病 ミダレコカクモンハマキ	カナメフロアブル カスケード乳剤	4000倍 4000倍	250ml×1 250ml×1	○黒星病防除重要時期 ○モニリア病の多発が心配される場合は、トップジンM水和剤1,000倍を使用しましょう。
3回目 ふじの落花直後 350ℓ	黒星病・斑点落葉病 うどんこ病・黒点病 廣らん病・リンゴハダニ ミダレコカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ	ミギワ20フロアブル チオノックフロアブル カスケード乳剤	4000倍 500倍 4000倍	125ml×2 2ℓ×1 250ml×1	○黒星病の重点防除時期 ○落花直後の散布間隔は10日以内とし、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒しして散布しましょう。 ○リンゴハダニのみられる園地ではバロック(F)2000倍を散布しましょう。
4回目 ふじの 落花10日後頃 420ℓ	黒星病・斑点落葉病 うどんこ病・黒点病 廣らん病・リンゴハダニ ミダレコカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ	ユニックス顆粒(水) ジマンダイセン(水) スプラサイド(水) クレフノン	2000倍 600倍 1500倍 100倍	500g×1 1.67kg×1 667g×1 10kg×1	○マメコバチの活動が見られる場合は殺虫剤を落花20日以降に散布しましょう。

※.SDHI剤(カナメ・オルフィンなど)、ミギワ、ユニックスは薬剤耐性発生の恐れがあるため年1回の使用とする。

☆凍霜害対策

発芽から開花期は、最も凍霜被害を受けやすい時期です。特に午後7時の気温が6℃以下で晴天無風になると降霜の危険性がありますので、防霜ファンや燃焼資材を用いて霜対策を徹底しましょう。

- ・燃焼資材は、各生育ステージの危険温度より1℃高い時点で点火する。
- ・防霜ファンは、温度検査器を地上から1.5mに設置し、始動温度を2℃に設定する。

凍霜害に対する安全限度温度

生育時期	危険温度の目安
展葉初期・花蕾露出期	-2.1℃
花蕾着色期	-2.0℃
開花初め	-1.5℃
落花期	-1.7℃

☆マメコバチの管理

- ・防鳥網の内側に土取り場として穴を掘り、穴の土が乾燥した場合は水を入れて湿らせましょう。
- ・アシガヤの更新はマメコバチ増殖のために3～5年に一度交換しましょう。
- ・巣箱を冷蔵保管している場合は展葉1週間後頃の薬剤散布から2～3日後に設置しましょう。



☆人工授粉

人工授粉は積極的に行いましょう！貯蔵花粉が無い場合は開花の早い品種(王林)を開花して人工授粉を行いましょう。

人工授粉の 作業目安	花の採取量 1手かごで約20～30a分とれます(王林で乾燥薬おおよそ50cc) ラブタッチ 作業量 10a当たり 2時間程度(凡天授粉の1/4) 花粉使用量 10a当たり 花粉20g + 石松子80g
---------------	--

※りんご研究所の調査によると「王林」は開花期の低温遭遇(15℃以下)により、発芽率の低下や純花粉量が少なくなることがわかりました。発芽検定により発芽率が低い場合は通常より濃い希釈倍数で使用するか、発芽率の高い品種と混ぜて授粉するようにしましょう。また、「ふじ」「世界一」「シナノゴールド」「金星」「はるか」の5品種は開花期の低温時でも発芽率が高く花粉量が多い品種となっているので翌年のために貯蔵花粉の準備を行いましょう。